

## コラム 緑化植物 ど・こ・ま・で・き・わ・め・る

### ナガミヒナゲシ (*Papaver dubium* L.)

吉川正人 (東京農工大学) masato@cc.tuat.ac.jp



今回は、一見、緑化植物として便利そうだが、耕地雑草化に注意を要する植物として、ナガミヒナゲシをとりあげる。都市近郊の幹線道路沿いでは、春、植え込みの中に鮮やかなオレンジ色の花を咲かせたナガミヒナゲシが群生しているのがよく見られる。ナガミヒナゲシは、ヨーロッパの地中海地方が原産の一年生草本で、現在では北欧から北アフリカ、西アジア、オーストラリア、南北アメリカの温帯域に広く分布している<sup>4)</sup>。ヒナゲシに似るが果実がより細長いため、long-headed poppyの英名があり、和名もこれを訳したものである。

ナガミヒナゲシは、秋に発芽して翌春に開花するか、春に発芽して初夏までに開花する<sup>3-5)</sup>。発芽適温は7~25℃と幅広い<sup>4)</sup>が、特に気温の低下によって発芽が促進される<sup>3)</sup>。生育初期はロゼットを形成し、花茎が伸びると高さ50~60cmに達する。貧栄養な場所では、高さ5cmほどのきわめて小さい個体でも花をつける。直径0.2mmほどの灰黒色の種子を多数つけ、長い茎が風に揺れることで散布される。

ナガミヒナゲシには2つの亜種 subsp. *lecoqii* と subsp. *dubium* がある。前者は4枚の花弁の間に隙間があり、茎葉を切ると黄色い乳液が出る。後者は花弁が重なり合って隙間がなく、乳液は乳白色である<sup>2)</sup>。日本にも両タイプが帰化しているが、国内の図鑑等では区別されていない。subsp. *lecoqii*のほうが花期が早く、東京近郊ではソメイヨシノと同じころから咲き始めるが、subsp. *dubium*は2週間ほど遅れて咲き始めるようだ。

日本では1961年に東京で確認されたのが最初の記録である。輸入穀物から種子が検出されており<sup>1)</sup>、非意図的な導入であったとみられるが、1990年代から急速に分布域が広がり、現在では北海道から九州まで広い範囲で確認されている<sup>6)</sup>。



写真-1 コムギ畑に侵入したナガミヒナゲシ

東京近郊でも1990年ごろまではほとんど目にしなかったが、90年代終り頃に爆発的に増加した。花がきれいなため除草されないばかりか、空き地に種を播いて増やしたり、インターネット上で種子を販売する人もいて、最近の分布の広がりに拍車をかけている。

ナガミヒナゲシは、日本産の野草には稀なオレンジの花色をもつこと、都市のアルカリ性土壌でもよく育つこと<sup>2)</sup>、種子の寿命が5年以上と長く<sup>4)</sup>扱いやすいことなどから、ワイルドフラワーとして緑化初期の修景や屋上緑化の材料に適しているように思われる。しかし、注意しなければならないのは、この植物が各国でコムギなど秋播き作物の難防除雑草となっていることである<sup>4)</sup>。筆者は、大学のキャンパス内にわずか1個体現れたナガミヒナゲシが、周辺のアスファルトの割れ目などで個体数を増やし、3年後には農場のコムギ畑に侵入したことを観察している。このことは、広域農道のような道路が侵入経路となって、農耕地に拡大していく危険性を示唆している。また、河川の礫河原のような自然性が高い立地への侵入も生じている。周囲への逸出・拡大がないよう、確実に管理できる状況下で利用すべき植物であろう。特に都市的土地利用と農耕地が近接している場所には意図的に持ち込むことを控え、道路沿いに侵入した場合は積極的に駆除することが望ましい。

#### 引用文献

- 1) 浅井元朗・黒川俊二・清水矩宏・榎本敬 (2007) 1990年代の輸入冬作穀物中の雑草種子とその種組成, 雑草研究, 52(1): 1-10.
- 2) James, T. J. (1997) *Papaver*, Plant Crib, Botanical Society of the British Isles. <http://www.bsbi.org.uk/Papaver.pdf>
- 3) Karlsson, L. and Milberg, P. (2007) A comparative study of germination ecology of four *Papaver* Taxa, *Annals of Botany*, 99:935-946.
- 4) 竹松哲夫・一前宣正 (1993) 世界の雑草II, 全国農村教育協会, 835pp.
- 5) 吉田光司・金澤弓子・鈴木貢次郎・根本正之 (2009) 種子発芽特性からみたナガミヒナゲシの日本の生育地, 雑草研究, 54(4): 63-70.
- 6) 吉田光司・根本正之・鈴木貢次郎・藤井義晴 (2008) 日本列島におけるナガミヒナゲシ (*Papaver dubium* L.) の生育地の拡大, 雑草研究, 53(3): 134-137.



種子. 表面に網目模様がある.



実生. 葉の表面に立毛があるのが特徴.



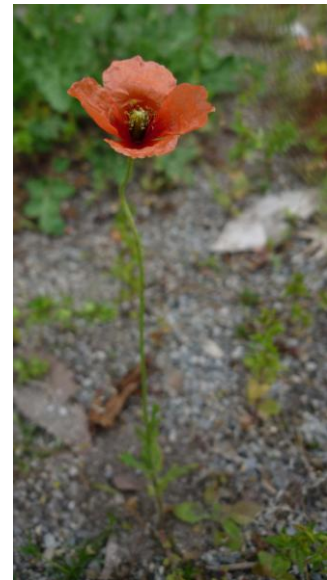
冬の間はロゼットで過ごす.



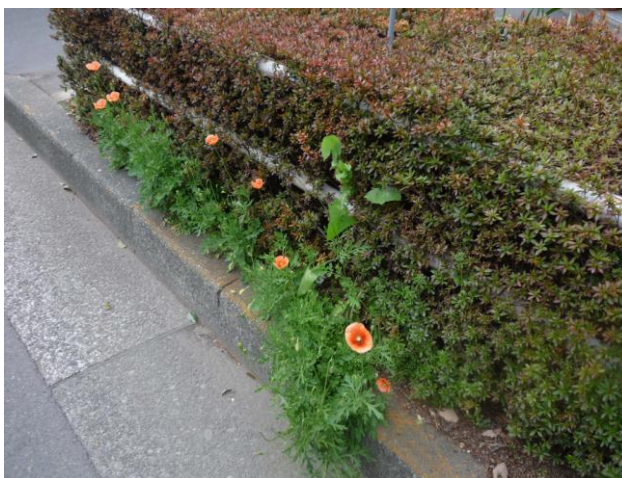
都市部では, 舗装道路の縁や砂利敷の駐車場, 公園などに多くみられる.



花の断面. ヒナゲシに比べ, 子房が細長い.



きわめて小型の個体でも, 開花して種子をつけることができる. 写真の個体は 5cm ほど.



道路沿いの植え込みに咲いたナガミヒナゲシ.